

情報基盤 統合DBデータモデルは、金融機関様向けの情報系データベースモデルです。
当モデルを適用することで、統合DBを短期間かつ低コストで構築する事が可能です。
また本部 / 営業店における情報活用の促進や、業務の高度化・迅速化が図れます。

システム化の狙い

情報基盤構築の意義

- ・経営のスピードアップ
 - ・データ(事実)を前提とした経営判断
 - ・営業施策のスピーディーな策定
 - ・営業施策展開 / 実績管理のスピードアップ
- ・ビジネス環境および環境変化へのタイムリーな対応
 - ・戦略策定の柔軟性と経営資源の適正配分
- ・体系的な顧客アプローチの実現
 - ・顧客セグメントの精緻化
 - ・顧客データによるチャネル統合への布石
- ・学習し成長する組織の構築
 - ・情報活用によるPDCAサイクルの構築

統合DBの位置づけ

- ・情報共有基盤の構造
 - ・情報統合による情報精度の向上、情報共有、項目仕様の整合性確保
 - ・開発、メンテナンス作業負荷削減によるトータルコストの最小化
- ・情報システムとデータの独立性確保
 - ・システム環境変化に対する自由度、追加・変更時の柔軟性確保
- ・経営戦略を推進する「情報化戦略」の源泉
 - ・構造的収益力強化と健全性維持の両立

機能要件

CRM実現のための情報基盤

- ・顧客コンタクト支援
- ・マーケティング支援
- ・各チャネルとのデータ連携

全社システムの共通マスタ

- ・個別業務・部門システムにおける共通マスタ(統合顧客情報)としての活用
- ・共通マスタ(統合顧客情報)一元化による信頼性およびわかり易さの向上

業績管理の情報基盤

- ・担当者業績評価、店舗業績評価の基礎値
- ・CS向上と連動した業績評価システムの構築

システム構成

